

<div></div> <div>案内看板（1～10）</div>
<p>岡山市歴史案内看板整備事業「岡山歴史のまちしるべ」を中心に、文学関係の箇所を記すとともに、歴史的・文化的人物や場所についても、文学作品の中に描写があるものは取り上げた。また、それ以外にも地域や顔影団体が設置した案内看板等も参考にした。さらに、文学と親和性の高い演劇や映画の関連も取り上げた。</p> <p>この裏面全体は、『岡山文庫（日本文芸出版）』の関係のある巻を多く参考にした。見出し語あとの「☆」は「岡山歴史のまちしるべ」の設置看板があることを表示。</p>

<div></div> <div>5 早水藤左衛門 生家跡☆</div>
<p>「勝田、早見、遠森、音に聞こえし片山源五」竹田出雲ら「飯 hands 本忠臣蔵」</p> <p>※「早見」は「早水藤左衛門」のこと</p> <p>「地下水火風 空のうちより いし身のたどりて帰る もとのすみかに」（藤左衛門辞世の句）</p> <p>「飯 hands 本忠臣蔵」は、近松出雲らの合作浄瑠璃。弓の名手で吉良郎討ち入りに参加し、そののち、切腹する。</p>

<div></div> <div>碑（1～10）</div>
<p>句碑、歌碑、詩碑等がある場所を抽出し、文学作品との関係を示した。ここでは碑に刻された言葉や、その碑にまつわる内容を、作家等の豆情報とともに記し、その碑の背後に広がる先人たちの思いを想像できるように配慮した。</p> <p>また、文学の素地を育んできた市内の学校で、廃校や転地等した学校の痕跡を、この裏面の最下段欄外にまとめ、地図中に○として記した。</p>

<div></div> <div>4 夏目漱石 句碑 ☆…漱石①</div>
<p>「生きて仰く 空の高さよ 赤蜻蛉」</p> <p>句碑は片岡家があった場所といわれる。片岡小勝は漱石の次兄の妻で、1885年9月頃から数か月間、東京で漱石と同じ屋根の下でともに生活した。小勝は4歳年下の漱石を可愛がるが、次兄は早死し、小勝は岡山に戻る。その後、東区金田の岸本氏との再婚が決まり、その婚礼の祝意伝達のため、岸本家を訪問（1892年7月16日～19日）した。またその前後、片岡家に約1ヶ月間逗留する。</p>

<div></div> <div>所縁の地（1～33）</div>
<p>文学作品の中で出てきた地名等で、場所が特定できるところを抽出し、地図上に落とさ込んだ。作者が目にしたであろう風景や、その作品の一端とともにまとめた。場所と言葉が共鳴し、同調するよう心がけた。</p> <p>ぜひとも、その作品を手にした場所に立ち、作家が目にした風景を、感じた風を体で受けとめてほしい。そして、開放空気を感じ、作者が口にした食べ物を味わってほしい。すると、今までの、目で読み、耳で聞く文学から、五感全体を使う、新たな鑑賞の仕方を岡山で手に入れられることとなる。</p>

<div></div> <div>4 夢二郷土美術館 …荷風⑤</div>
<p>「(1945年) 六月十八日。晴。昼飯後、昨朝散歩せしあたりを歩む。東庁門前の坂道を登り行くに、道おのづから後楽園対岸の堤に出づ。(中略) 橋を渡れば公園の入口なり。別荘亦、一小橋あり。郊外西大寺町に到る汽車の発着所あり」永井荷風「罹災日録」</p> <p>「発着所」は「後楽園駅」のことで、「夢二郷土美術館」の場所にあった。東区西大寺からの路線で、ここが終着駅。岡山電気軌道 旧番町線(後楽園前駅)まで徒歩10分。</p>

<div></div> <div>9 三友寺☆</div>
<p>「大きな溝があって、蓋のないどぶを跨がる様に、石井十次さんの岡山孤児院の本部があった」内田百閒「黄色い狸」</p> <p>児童福祉の父 石井十次は三友寺の一面に岡山孤児院を創設した。徳富蘇峰も1903年6月13日に訪れている。また、10才で父親を亡くした田耕柞は、姉の恒子を手を頼って来岡するが、その夫ガントレットとともに三友寺に暮らし、義兄から西洋音楽の手ほどきを受けた記録も残る。</p>

<div></div> <div>14 旧 岡山市旭東国民学校 …荷風①</div>
<p>「(1945年) 六月十二日。(中略) 正午岡山に着す。宅島の知人巖土氏の家に至り、昼飯、及晩飯の恵みに与る。この夜、小学校講堂にて氏洋琴弾奏の会あり。雨中、諸氏と共に行く」永井荷風「罹災日録」</p> <p>※「洋琴弾奏」はピアノ演奏のこと</p> <p>三ツ木茂「荷風を追って」によると、1929年に旭東実学会から贈られた、当時珍しいスタンウェイのグランドピアノでベートーヴェンのピアノ・ソナタ等が独奏されたという。</p>

<div></div> <div>19 平井(河口八景)</div>
<p>「みだれ州の つらも霧間に 見えそめて 平井の瀧に 落つるかりがね」</p> <p>近江八景を模して藩主池田綱政が詠んだ八首のうちのひとつ。平井はこの地図の南欄外すぐ、四つ手網でとる白魚が有名だったという。芭蕉の弟子の宝井其角の句「白魚をふるい寄せたる 四つ手かな」や、与謝鉄幹の「旭川に 白魚のぼる 春の宵 酔いたる人を 車に乗せぬ」の歌がある。なお「白魚」は「しろいを」といい、雄が旨い。</p>

<div></div> <div>24 山陽新聞社 本社</div>
<p>「岡山の山陽新聞紙上の重傷者欄に姓名が発表されて以来すでに殆ど私を喪った気ではいた母は私の進もうとする道についても、…」棟田博「拜啓天皇陛下様」</p> <p>○棟田博（わねた ひろし）1908年～1988年 津山高校の出身で、自らの戦争経験をもとに多くの作品を生み出す。瀧美清主演、野村芳太郎監督で映画化された。「桜とアザミ」のほか、故郷を題材にした『ハンザキ大明神』『美作/国吉井川』など。津山市文化賞受賞。</p>

<div></div> <div>29 岡山駅</div>
<p>「僕は岡山下車すると、巡業中の歌劇団のポスターを横目で見ながら、車を硝子張りの、「金髪パー」の前でとめて、酒杯の中に沈んでいった。すると、肥満した女主人が僕に驚れて煩悶した」吉行エスケ「飛行機から墜ちるまで」</p> <p>○吉行エスケ（よしゆき えいすけ）1906年～1940年 旧制一中を4年で退学し、翌年、一(★)に通う15歳の学生あぐりと結婚する。吉行淳之介は長男、吉行理恵は次女。</p>

<div></div> <div>岡山市生まれの人々</div>
<p>内田百閒、大西祝、小川洋子、坂手洋二、津田永忠、坪田譲治、福田英子、山尾悠子、湯浅常山、吉行あぐり、吉行エスケ、吉行淳之介など</p> <p>(五十音順)</p>

<div></div> <div>1 坪田譲治 母校中学跡☆</div>
<p>「私が文学的になったのは中学四、五年のころからだと思います。もともと『少年世界』だの『中学世界』だのという雑誌を読んでいたのですが、どうした八ツミか、中学四年、ちょうど日露戦争が終わったころかと思いますが、私は詩が好きになったのです」坪田譲治「読書の思い出」</p> <p>この地にあった養正学校（旧 金川中学校の前身）に入学。学校転地により、2年間は津山線を使って汽車通学を行うこととなる。この頃から学友と詩作をし、投稿をはじめた。</p>

<div></div> <div>6 津田永忠 屋敷跡☆</div>
<p>「津田重次郎永忠は（中略）博学多才、文武百般に通じ、光政をして、『才は国中に及びなき』とまでいわれていた 附近中の附近でもある」あさのあつこ「父と子と」</p> <p>○津田永忠（つだ ながただ）1640年～1707年 弓之町の屋敷に生まれ、栄町の屋敷に住む。2代の藩主に仕え、百閒川開削、後楽園、開谷学校の建設等の事業を指導し、現在の岡山の基盤を築く。</p>

<div></div> <div>1 竹久夢二の詩碑</div>
<p>「待てど暮らせど 来ぬ人を 宵待ち草のやる瀬なき 今よひは 月も出ぬさうな」「宵待草」</p> <p>○竹久夢二（たけひさ ゆめじ）1884年～1934年 大正ロマンの美人画家。碑の対岸にある「4夢二郷土美術館」では夢二の作品に触れることができる。瀬戸内市邑久町にある「夢二生家記念館」とアトリエ「少年山荘」は見学可能。生家裏山の墓に眠る。</p>

<div></div> <div>5 表具師 鳥人幸吉之碑</div>
<p>「幸吉は旭川にかかっている京橋という高い橋の上まで来てふと立ち止まり、欄干越しに下の河原を見下ろした。「ここからなら、追いつ風を受けて飛ぶことができるぞ!」高井康隆「空飛ぶ表具屋」</p> <p>○高井康隆（つつい やすたか）1934年～ 小松左京・星新一とともに「SF 御三家」とも称される。また、俳優としても活躍する。「お助け」「家族八景」「虚航船団」など。『七瀬ふたたび』『時をかける少女』は映画化も。</p>

<div></div> <div>0 岡山の空</div>
<p>「藤吉は口を覆っていた手拭いを取り、大きく息を吐き出した。それから、空を見上げる。岡山の空色は大抵のそれより、柔らかい」あさのあつこ「石工たちの空」</p> <p>○あさのあつこ 1954年～ 林野高校出身で、大学卒業後は、岡山市立幡多小学校、西大寺小学校で講師として学校勤めをする。現在も高校等に Outreach、出前授業をこなす。小説『バッテリー』はラジオドラマやアニメ、映画にもなる。岡山県文化賞受賞。</p>

<div></div> <div>5 後楽園 …漱石②</div>
<p>「金田と申す田舎へ参り、二泊の上、今朝柳岡仕候。閉宮へは未だ参らず。後楽園、天守閣等は諸所見物仕候。当家は旭川に臨み、前に三權山を控へ東南に京橋を望み、夜に入れば河原の掛茶や無数の紅灯を点し、宛涼の小舟三々五々橋下を往来し、燭光清流に徹して絶たぬ小不夜城なり。君と同遊せざりしは返す返す残念なり」夏目漱石「正岡子規宛の葉書（1892年6月19日）」</p> <p>岡山市東区金田には漱石の散策路「漱石ロード」がある。</p>

<div></div> <div>10 岡山県警察本部（岡山警部の勤務先）</div>
<p>「拵助の顔をまともににらみながら、「櫻川」という警部ですよ。岡山県でも古理といわれる、古い、腕利きの警部さんじゃよ」横溝正史「獄門島」</p> <p>「櫻川警部は岡山県の県警本部に勤務していて、『本陣殺人事件』以来、金田一拵助とは古い馴染みである」横溝正史「悪魔が来りて笛を吹く」</p> <p>○横溝正史（よこみぞ せいし）1902年～1981年 倉敷に疎開していたので、岡山が舞台の小説は多い。</p>

<div></div> <div>15 西中島…①百閒の奈良茶（納涼会）</div>
<p>「夏の蒸し暑い夕方に浴衣掛けて京橋川原の掛け茶屋に出かけ、川風に吹かれながら奈良漬にお茶漬けの夕飯を食べた。(中略) 奈良茶へ行くとき云ふのは子供の時から毎年夏の宵の一番の楽しみであった。私の生家の古島町から行くには小橋中橋を渡り、京橋手前から西中島の通へ通入つて、暗い家の前を二三軒行くとすぐ右にだらだらと横（かはら）へ降りる坂があった」内田百閒「奈良茶」</p> <p>※「掛け茶屋」は「腰掛け茶屋 (=オープンカフェ)」のこと</p>

<div></div> <div>20 岡山禁酒会館 ☆</div>
<p>「禁酒会館という食堂で、日曜日の卵サービスのカレーライスに舌鼓を打ってみた」鈴木隆「けんかえれじい」</p> <p>○鈴木隆（すずき たかし）1919年～1998年 第二岡山中学から会津の旧制喜多方中学校に転校した。上京し坪田譲治に師事する。自伝的長編「けんかえれじい」は鈴木清順監督によって映画化され、大ヒットとなる。原作には(★)校、(●)中、天満屋、大手饅頭、吉備団子も登場する。</p>

<div></div> <div>25 つるの玉子本舗</div>
<p>「女学校二年の光子が、二階で遅くまで英語の歌をうたっていた。(中略) 私もこの歌はならった事がある。なんだか、遠い昔のことのような気がする。義父が岡山の鶴の卵と云う菓子を貰って来てくれた事を思い出した」林芙美子「放浪記」</p> <p>○林芙美子（はやし ふみこ）1903年～1951年 「放浪記」は菊田一夫脚本、森光子主演でロングランが、「晩菊」「浮雲」「めし」は成瀬巳喜男監督により映画化も。</p>

<div></div> <div>30 奉還町商店街</div>
<p>「ミニサイクルにまたがって、吉備線の線路を越えて、商店街の奉還町を通過つて、岡山駅まで十五分。そこで自転車を降りて、東西連絡通路を歩いて、地下ショッピングセンターの岡山一番街を抜けて、地上に出る。そこには市電の始発の停留所がある」原田マハ「でーれーガールズ」</p> <p>明治維新で職を失った武士が、藩から与えられた奉還金を元手に、旧 山陽道で商売を始めたのが商店街の起源。</p>

<div></div> <div>岡山市に眠る人々</div>
<p>有本芳水（上道医院院）、内田百閒（安住院）、大西祝（東山墓地）、木下利玄（定守大光寺）、吉行エスケ（御津金川）、吉行淳之介（御津金川）など</p> <p>(五十音順)</p>

<div></div> <div>2 河合又五郎 屋敷跡 ☆</div>
<p>「河合又五郎を、去る七日、藤堂大学頭様御領分、伊賀の国上野城下において、元家中、渡辺数馬が姉婿荒木又右衛門の助力を得て、首尾よく ―― おう、首尾よくじゃ、首尾よく討つて取ったよ」長谷川伸「荒木又右衛門」</p> <p>又五郎は岡山藩士。主君が寵愛する渡辺源太夫に又五郎は横恋慕して関係を迫るも、拒絶され逆上し、源太夫を殺す。のち、源大夫の兄により仇討ちにあい、殺される。</p>

<div></div> <div>7 お稲（シーボルトの娘） 医術修行の地 跡</div>
<p>「お稲は、家の前で帯を使っている中年の女に、下之町の所在をたずねた。(中略) 家並の上から天守閣が突き出ていた。華やかな西日を浴びているが、茜色に染まはめている空を背景にこのよなく美しいものに見えた」吉村昭「ふぉん・しいほとんどの娘」</p> <p>※シーボルトの娘、お稲は日本初の女性産科医</p> <p>○吉村昭（よしむら あきら）1927年～2006年 「破獄」「高熱隧道」「漂流」「ボツボツの旗」など。</p>

<div></div> <div>2 奥山朝恭先生作曲顕彰碑</div>
<p>「浩蕤軒の御主人は師範学校の奥山先生である。校長が教頭かであったのではないかと思ふ。(中略) 奥山先生はまた「青葉繁れる」の作詞者か作曲者かではないかと思ふ。私の記憶は甚だ不確かではあるが「青葉繁れる」が岡上で出来た事には間違ひないらしい」内田百閒「古里を思ふ」</p> <p>○内田百閒（うちだ ひゃっけん）1889年～1971年 「阿房列車」「廣作 吾輩は猫である」「百鬼園随筆」など。</p>

<div></div> <div>6 熊沢蕃山 書状の碑</div>
<p>「前夜はゆるゆると 得貴意候 其節申入候 草花とも 此者に申度候別 御向姓様へも 可然被仰 入可被下候頓首 卯月八日 〔切封〕 蕃山了介 津田重二郎様」※津田永忠宛ての書状の碑であるが、判読しづらい</p>

<div></div> <div>1 旭川堤（岡山大空襲）…荷風⑦</div>
<p>「宿のおかみさん蒸の子の昨日乗立せししま帰り来らざるを見、今明日必ず災象あるべしとて、遽（にわか）に逃走の準備をする。(中略 空襲) 予は死を覚悟し路傍の樹下に蹲踞して徐（おもむろ）に四方の火を覗きす」永井荷風「罹災日録」</p> <p>「余は旭川の堤を走り、鉄橋に近き河原の砂上に伏して九死に一生を得たり」永井荷風「断腸雪日記」</p> <p>6月29日未明、空襲を逃れんと鶴見橋、蓬菜橋から北上。</p>

<div></div> <div>6 旧 中国食材</div>
<p>「停留所から地下道をくぐって、旭川側へ渡る。角には、高校生のごころ、マンガのクント紙やペン先やスクリーントーンを買った文具店がある。昔のなじみの店が、新しくはなっているものの、同じ場所に変わらずにあるのを見るのは、やっぱりうれしい」原田マハ「でーれーガールズ」</p> <p>『でーれーガールズ』には、他に西口連絡通路、天満屋、木村屋、城下カフェ、岡山市民会館等の記述もある。</p>

<div></div> <div>11 旧 山陽高等女学校</div>
<p>「紫紺色のセーラー型の洋服に、グリーンのネクタイをした姿が、一番子供らしく無邪気に見えた」菊池寛「心の日月」</p> <p>「春の終わりで、車窓はいっぱいに開かれていた。電車がスピードを上げると、風が車内に吹き込んでくる。女の子の胸元のリボンが、いっせいにふわつと持ち上がる。一瞬、風が緑色に染まる」原田マハ「でーれーガールズ」</p> <p>1905年からオリブグリーンをスクールカラーとして使用。</p>

<div></div> <div>16 京橋</div>
<p>「私は川東の古京町の生まれなので賑やかな町の真中へ出て行くには先づつち橋を渡り、それから小橋中橋を通過つて京橋を渡る。京橋は蒲葺の背中の様なそり橋であつて、真中の一番高い所に起つて橋本町西大寺町から新西大寺町の通が一見に見えぬ。菅文弘の売出しの提灯のとちつた晩などは、橋の上から眺めてこんな繁華な町が日本中にあるだらうかと思つたりした」内田百閒「古里を思ふ」</p> <p>※「菅文弘」は1896年から続く表町商店街の大売出し</p>

<div></div> <div>21 初平 跡</div>
<p>「三時ごろになるとおやつの時間です。祖父はまた、(中略)岡山の「初平」の水蜜桃、(中略)を送らせていました」渡辺たをり「花は桜 魚は鯛」</p> <p>※「祖父」は谷崎潤一郎のこと</p> <p>「初平」は贈答用の果物の生産・販売をしていた。岡山市旧日 内山下28、現在のJTB岡山（交差点の北西）あたりは鈴木清順監督によって映画化され、大ヒットとなる。原作には(★)校、(●)中、天満屋、大手饅頭、吉備団子も登場する。</p>

<div></div> <div>26 旧 普通予備学校</div>
<p>「数学の不得意に由り岡山中学校の入学試験に落第す。苟かに思へらく、数学の才に疎なるは漢詩に耽るが為なりと、由つて是より漢詩を厭するこの種となり」与謝鉄幹「自作年譜」</p> <p>安住院に14歳の時、寄寓していた与謝野鉄幹は、薬師院の寺内にあった普通予備学校に通い、「英、漢、算の三科を学んだ（熊代正英「寛・晶子の岡山吟行」）」が、岡山中学校への入学に失敗する。</p>

<div></div> <div>α（31） 沼尻温泉 跡 …荷風⑥</div>
<p>「(1945年) 六月十九日。晴。旅舎より四五軒隔たりし家つきに風呂あり。沼尻温泉といふ浅葱染の納蘭の「れん」をさげたり。湯錢八錢。浴槽流し場共に見影石なり。京阪の例に濡れず上り湯なし。浴客東京のごとく喧嘩ならず静かに沐浴することを得べし」永井荷風「罹災日録」</p> <p>今では痕跡を確認できないが、この「31沼尻温泉」[32避難の離れ座敷]「33松月旅館」は3軒ほは横並びで隣り合っていたことがかつての地図から確認できる。</p>

<div></div> <div>文学素地を育んだの学校跡（痕跡の碑等）の記憶</div>
<p>岡山大学（文学部 日本語・日本文学科）</p> <p>○石小、○西小、○南方小、○榎小、○内山下小、市立○中学校、県立○業学校、県立○業学校、第一高等○女学校、○西学園、第○高等学校、岡山○範学校</p>

<div></div> <div>3 渡辺数馬 屋敷跡 ☆</div>
<p>「政右衛門声をかけ。「孫八武介は我に構はず志津馬をかこい。我兼ねて聞及ぶ。又五郎には付人ある由。目ざす敵は只一人。(中略) 身拵へを。」とせしむる也。志津馬はあひぶを一世的請業」近松半二「伊賀越前中双丸」</p> <p>数馬は岡山藩士。弟の源太夫を殺害した河合又五郎を、荒木又右衛門の助太夫により伊賀上野で討ち取った。浄瑠璃では和田志津馬（渡辺数馬）、敵は沢井又五郎（河合又五郎）、助っ人は唐木政右衛門（荒木又右衛門）となる。</p>

<div></div> <div>8 鳥人幸吉が奉公した紙屋 跡 ☆</div>
<p>「上の町に表具屋万兵衛の店があった。紙のおきないと、表具師を兼ねていた。(中略) 竹込みの職人に幸吉という者がいた。万兵衛の遺縁にあたる」新田次郎「鳥人伝」</p> <p>○新田次郎（にった じろう）1912年～1980年 気象庁職員時代に富士山気象レーダー建設にも携わりつつ、「強力伝（直木賞）」でデビューする。「[甲田山死の彷徨」「聖廟の碑」は森谷司郎監督によって映画化される。「劔岳・点の記」「富士山頂」ほか。藤原正彦は次男。</p>

<div></div> <div>3 大西祝先生 終焉地の碑</div>
<p>「操山大西祝先生終焉地」（揮毫 坪内逍遙） ※大福寺の裏手、住宅街の一角にひっそりと建つ</p> <p>○大西祝（おおにし はじめ）1864年～1900年 新島襄に洗礼を受ける。坪内逍遙とともに早稲田大学の基礎を築く。墓は東山墓地の斎場近く、上代漱の隣。</p> <p>○坪内逍遙（つばうち しょうよ）1859年～1935年 近代日本文学の成立や演劇改良運動に大きな影響を与えた。「小説神髓」「当世書生気質」など。</p>

<div></div> <div>7 松尾芭蕉の句碑</div>
<p>「古池や 蛙飛び水 の音」 「梅が香に のつと日の出る 山路かな」</p> <p>蓮昌寺の庭に碑は建つ。寺は日蓮宗の寺院で、1300年代に創建されるも、空襲の戦火に遭い、消失、のち再建。</p> <p>○松尾芭蕉（まつお ばしょう）1644年～1694年 江戸、元禄の俳諧師。高次元の文芸性を追求した蕉風俳諧を完成。「奥の細道」「更科紀行」「笈の小文」など。</p>

<div></div> <div>2 岡神社 …荷風④</div>
<p>「(1945年) 六月十七日。日曜日。晴。午後岡神社を拝し、祠後の堤に出て岡山城を望見す。風光頗佳なり。夜旅館の室内蚊多く鬱蒸甚しければ、出て近港を歩す。県庁、裁判所等あり」永井荷風「罹災日録」</p> <p>このときの県庁は、現在の天神山文化プラザの場所にあった。道を隔てた西側に裁判所が、南側には東から図書館、議事堂、警察署が並んでいた。[33松月旅館]は町中であったが、ここに移ってからも蚊には悩まされ続けた。</p>

<div></div> <div>7 岡山城（烏城）</div>
<p>「烏城の天守閣を眺めた。深い青い空を区切るその黒いお城のどの線もがキク、キクと鋭く目にしみていたかった」棟田博「拜啓天皇陛下様」</p> <p>「烏城ともいふ、さぶでまつ黒な、中々いゝ感じのお城だった。たゞ城門をくぐつて這入つて下から暫らく眺める丈にして、今のつて来た船に再びのり、後楽園へゆく。旭川といふ川は大好なつた」星野立子（高浜虚子の次女）「綺玉裳併話」</p>

<div></div> <div>12 廣榮堂（吉備団子）</div>
<p>「私がまだ上京して東京の学校へ這入らない前、岡山名物吉備団子を夏目漱石先生に贈つたところ、請け取つたと云ふお札の手紙を戴き、その中に、団子は丸いばかりと思つたが、吉備団子は四角いのだねとあつた。経木製の格子の中で四角くなつてしまつたのである」内田百閒「中納言の吉備団子」</p> <p>「特に串刺しのやつが百閒は大好きだった（岡将男「岡山の内田百閒」）」との記述も見える。</p>

<div></div> <div>17 西中島…②尾上松之助 生誕の地</div>
<p>「父は（中略）試みにやつてみたのが貨座敷業であつたが、是れには妙に長く続いた。私は其の続いた最中に生まれたので、従つて夜昼間断然しない入する艶な風姿の芸妓妓を友として、三枚の嚔を眠り唄と聞いて育つた」尾上松之助「尾上松之助自叙伝」</p> <p>○尾上松之助（おのえ まつのすけ）1875年～1926年 牧野省三との邂逅により、映画役者としてデビューし、日本初の「映画スター」となる。「主演映画」は全本を超える。</p>

<div></div> <div>22 小西行長の養子先 跡 ☆</div>
<p>「行長は、自殺が名誉とされる武士の論理と、自殺が禁じられたキリシタンの倫理が相反する現実を突き付けられてしまったのだ」遠藤周作「鉄の首飾」</p> <p>※小西行長は戦国時代の武将で、後にキリシタン大名になる。幼少時この地の呉服商の養子として生活していた。</p> <p>○遠藤周作（えんどう しゅうさく）1923年～1996年 安岡章太郎らとともに「第三の新人」と称される。「沈黙」「海と毒薬」「白い(芥川賞)」や随筆「狐狸庵」シリーズ。</p>

<div></div> <div>27 桃太郎大通り</div>
<p>「JR岡山駅が東へまっすぐ延びるメインストリート、桃太郎大通り。その真ん中を、一両編成の路面電車が走っている」原田マハ「でーれーガールズ」</p> <p>「桃太郎大通り」は岡山駅前から城下交差点までの1 kmの主要道路。道の両端には桃太郎や犬・猿・雉の彫刻が数多く並ぶ。また、桃太郎大通りと直交する西川緑道公園筋・枝川筋にも数多くの彫刻が配られていて楽しめる。およびその街地の道は南北を「筋」、東西を「通り」と称す。</p>

<div></div> <div>α（32） 避難の離れ座敷 跡 …漱石③</div>
<p>「当家は旭川に望む場所にて、水害中々烈しく、床上五尺程に及び、二十三日夜は近傍へ立退、終夜眠らずに明し、二十五日より当地地金満家にて光藤と云ふ人の離れ座敷に迎へ取られ候処、同家にても老祖母大患にて、厄介に相成るも気の毒故、八日目に帰宅仕候」夏目漱石「子規宛ての手紙（1892年8月4日）」</p> <p>「当家」は義姉の実家片岡家 のこと。旭川氾濫で一次は天神山に避難。その後、光藤定吉の離れへ避難。</p>

<div></div> <div>α（33） 松月旅館 跡 …荷風③</div>
<p>「(1945年) 六月十六日。晴。(中略) 午後ホテルの食堂まで粗悪なれば、池田氏の来るを待ち其の紹介にて弓町旅館と云ふ旅館に転宿す」永井荷風「罹災日録」</p> <p>○永井荷風（ながい かふう）1879年～1959年 1945年の東京大空襲で家を焼け出され、岡山に疎開する。戦終戦近の8月13日には、県北勝山に疎開していた谷崎潤一郎を訪ね、すき焼きの饗応に与つた。岡山疎開は80日に及んだ。三ツ木茂「荷風を追って」に詳しい。</p>

<div></div> <div>4 経宜堂 跡（豪商 河本家 跡） ☆</div>
<p>河本家は船着町で肥料商「灰屋」を営む豪商であった。笛字帯刀も許可されたという。文化活動に力を入れ、「餓鬼草紙」（国宝：東京国立博物館収蔵）をはじめ、優れた土書画骨董を蒐集していた。</p> <p>6代目 河本立軒は、学校と図書館を兼ねた「経宜堂」を設立した。これは日本初の民間人を対象とした公開図書館で、現在の岡山図書館の盛況につながる、岡山人の精神的ルーツともいえる場所である。浦上玉露や湯浅常山など多くの文人・学者が集まる場であった。</p>